

アジア多国籍医師団構想報告（４）

代表 菅波茂

会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

アジア多国籍医師団構想のパイロットプロジェクトとしてバングラデシュのミャンマー難民緊急救援医療をこの４月より開始しています。この経過につきましては「中間報告」として別紙を設けていますので御参照ください。この動きは全国的に大きな反響と共感をよび寄付や連携の問い合わせが続いています。本当に有り難いことと感謝しています。

先日、ネパール王国ビスヌ村地域医療プロジェクトに参加している早川先生よりファックス報告がありました。それによりますとこの２－３月頃からブータン内部の政情不安によりネパール語系住民の難民化が始まっており、その数は約５万人に達するという事です。この難民に対してネパール支部がこのたびの郵政省国際ボランティア貯金助成の四輪駆動車を使って救援医療キャンプを自主計画しています。この計画の支援および具体化のために６月には山本秀樹先生が７月には岩永資隆氏が現地入りをします。詳しいことは次号にて報告いたします。

カンボジア難民本国帰還緊急対応医療プロジェクトにつきましては国井修先生及び桑山紀彦先生が予備調査のため現地入りしています。国井先生の報告は別紙を参照下さい。また、ロンドン大学熱帯医学校留学中の高橋央先生と同期生３名が専門性を生かした形で卒業直後の９月より１年間の参加が確定しました。このプロジェクトは国連難民高等弁務官（UNHCR）との連携の可能性がでてきています。詳しくは次号にて報告いたします。

国際緊急救援NGO合同委員会（JJN）のエチオピア－ティグレイ救援プロジェクトに林秀雄先生が６月より３か月間アジア医師連絡協議会より派遣されることになりました。林先生は岡山大学とスーダンのハムツール大学医学部間の医療協力のために２年間活躍されていました。

このたび１９９３年林原フォーラムの開催が決定（別紙参照）しました。テーマは「文化を尊重した国際医療協力－アジア多国籍医師団の展開」です。ミャンマー難民医療／カンボジア難民医療／ブータン難民医療を１９９２年の三大パイロットプロジェクトとして位置づけてその成果を林原フォーラムに持っていきたく思っています。

会員の皆様の積極的な参加を期待しています。連絡は本部事務局へ。

1992年(平成4年)4月22日(水曜日)

バングラデシュに国際救援医師団を派遣したアジア医師連絡協議会(AMDA)代表

菅波 茂さん(46)



バングラデシュには、ミャンマーに軍事政権成立後、多数の難民が流れ込み食料難や住環境の悪化で深刻な状況にある。「一人でも多くの人を救いたい。技術的な援助は国にまかせておけばいいが、現地のニーズに合った医療は現地の医師とのコミュニケーションでこそ実現できる」

ニーズに合った医療を

岡山大医学部の学生だった昭和四十四年、学園紛争の真ん中にアジア各国を旅行、現地の医療環境を見聞した。「こ



この体験が今の活動のバックという。ククラウンドになっていく。アジアの各国は医学部生や医師の交流が活発なのに日本は何をやっているんだらうと感じた」

AMDAは結成十二年目を迎え、十三カ国、約四百人が参加するまでに輪が広がった。今回の国際救援医師団には自ら経営する内科医院の副院長を派遣した。「自分もどんどん現地に出ていきたいんだけど」とぼつり。自然災害など緊急事態に早く対応する「アジア多国籍医師団」の来年の発足を目指し、準備に忙しい日々を送っている。岡山市榴津の自宅で妻と子供三人の五人暮らし。

1992年(平成4年)5月3日(日曜日)



ミャンマーに軍事政権成立後、バングラデシュに流入した難民は二十六万二千人に上る。国境を接するバングラデシュの南部の都市コックスバザールを中心に四月中旬から二週間滞在し、十二のキャンプを巡回診療した。「バングラデシュはもうすぐ雨季に入る。明けた後、集団食中毒や伝染病がまん延する可能性がある」と訴える。日本の民間医療組織としては初めて難民キャンプに入り「日た。

ミャンマー難民を救うためアジア医師連絡協議会の医師団に参加した

つまがり 兼司さん
津曲 けんじ

日本への期待感ひしひしと



本々のN.G.O.(非政府組織)に對し、現地の政府や他国のN.G.O.と、話し合った結果、薬による畜生感した。現地の人は日本をアシ中、除菌と衛生教育を担当。一緒アの一員としてみている」。キに現地入りしたバングラデシュ

滞り。「アフリカに住む人間の明るさに魅せられた」とアフリカに住む夢を抱いた。その手段として医療を選び、二十五歳で秋田大医学部に入學した。在學中にアジア医師連絡協議会(AMDA)の活動に加わった。そのAMDAは来年、緊急の災害時などに対応する多国籍医師団の結成に向け準備中だ。「AMDAも参加するアロジエクトで近い将来にアフリカへの医師派遣が具体化しつつある。また、あの大地が踏める」と声が弾む。岡山市佐山の自宅に妻美幸さん三三さんと二人暮らし。「九月にもう一人増えるんですよ。千葉真松戸市出身。アに留學の機会を得て、一年半三十五歳。